

○4番（諏訪一則議員） 4番諏訪一則でございます。議長にお許しをいただきましたので、通告順に従い質問いたします。

初めに、65歳以上の方に実施しております高齢者の肺炎球菌ワクチン接種についてお聞きいたします。

高齢者はインフルエンザや肺炎にかかりやすく、それをきっかけに重症化して入院、そして、寝たきりになってしまうこともあります。これらの予防接種を行うこともフレイル予防の1つの方法と言えます。高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種の接種率によっては、今後の肺炎患者数や肺炎で亡くなる方の数は大きな差が出てくる可能性があります。

高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種が、「予防接種法」の改正により平成26年10月1日から定期接種となりました。国では、制度開始当初は平成26年度から平成30年度の5年間のみ実施、令和元年度以降の定期接種は新たな65歳の方のみを対象に行う予定でしたが、過去5年間の接種率が低かったことを踏まえ、70歳以上でこれまで一度も肺炎球菌ワクチンを接種したことがない方に、再度5年間の延長をして節目の年齢時に定期接種、予防接種の機会が設けられることといたしました。特に、年齢が上がる75歳以降に従って接種率は下がっていくと言われており、周知が不十分との指摘もあることから、経過措置の延長が決定されたわけです。

そこで、本市の高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種の接種率、向上対策について伺います。

1つ目として、平成26年度から昨年度までの国、県、市平均予防接種率について伺います。

次に、2つ目として、肺炎は日本人の死因の第3位を含めいて、高齢者になるほど重症化しやすいため、本市としてどのように接種率向上に努めているのか伺います。

以上、高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種について2点伺います。

次に、小中学校の電子黒板設置についてです。

日本は今、小学校プログラミング教室、ICT活用推進、遠隔授業、統合型校務支援システムについて話が進んでいます。全ての学級へ電子黒板を導入し、ICT活用について先進的な取組を行い、学校の実践や成果を他の学校に広げていくことにあり、市内全体としての一層の向上を目指すべきと考えます。ICTを活用している教育の現場では、PCやタブレット、電子黒板などの教材が昔と違い、今の世の中では情報通信技術は必要不可欠な機器となっております。生徒からすると、授業をより楽しく分かりやすくすることができます。電子黒板を活用した授業改善を推進し、生徒の学習意欲の向上を図ることが望まれます。

そこで、電子黒板について伺います。

1つ目として、公立小中学校の普通教室の電子黒板整備率について伺います。

2つ目として、電子黒板のこれからの活用について伺います。

ご答弁のほどよろしく願いいたします。

以上、2問4点についてお伺いし、1回目の質問を終わりにいたします。

ご答弁のほどよろしく願いいたします。

○川又照雄議長 答弁を求めます。保健福祉部長。

〔柴田道彰保健福祉部長 登壇〕

○柴田道彰保健福祉部長 高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種の接種率向上に係るご質問にお答えいたします。

初めに、平成26年度から昨年度までの国、県、市の平均接種率でございますが、この予防接種は、議員ご発言のとおり平成26年10月から定期予防接種として追加され、その年に65歳以上の5歳刻みの節目年齢の方及び60歳から64歳で内部障害手帳1級程度の方を対象に実施しておりまして、平成30年度までの5年間で、65歳以上の方が一通り予防接種の対象者となっております。

平成26年度から平成30年度、5年間の平均接種率を国、県、市で比較いたしますと、国は35%、県は27.8%、当市では48.3%の接種率となっております。また、当市においては、定期予防接種の対象者に当たらない66歳以上の方、具体的には66歳から69歳、71歳から74歳の方等が任意に接種を希望された場合にも、定期接種と同様に接種費用の助成を行い、実施してまいりました。任意予防接種を含めたこの5年間の平均接種率は57.4%で、当市は、国や県と比較いたしますと接種率は高い状況でございます。

令和元年度からは、国による接種期間の延長措置によりまして、新たに65歳になる方及び平成26年度から平成30年度までに一度も高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種をされていない70歳以上の節目年齢の方に、特例措置で定期予防接種を実施しております。令和元年度の接種率につきましては、国、県はまだ発表はされておきませんが、市の接種率は65歳の方が58.4%であり、それ以外の特例措置の方については16.6%と、再度の通知をしておりますが、低い接種率となっております。

次に、接種率向上のための方策についてでございますが、対象者である65歳及びそれ以外の特例措置の方全員に対し、年度初めの4月に個人宛て通知をしております、また、12月末現在で接種をされていない方を抽出いたしまして、再度通知を行っております。また、65歳以上の節目の年齢以外の方に対しましても定期接種と同額の助成をし、実施していることを、全戸配布している健康づくりガイドやホームページ+6、市内各地区で実施されている健康教室等においても周知をしております。

今後におきましても、広報お知らせ版による周知の他、新たに保健推進員など、健康づくり関係団体と協力しての接種勧奨やチラシ配布、ポスター掲示等、あらゆる機会を通じまして、高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種の接種率向上に向けて、積極的に取り組んでまいります。

また、令和3年度におきましては、4月から新型コロナワクチンの高齢者への接種が予定をされております。このワクチンは3週間以上の間隔を置いて2回接種する必要があり、他の種類の予防接種を受けるには2週間の間隔を置く必要がございます。このため、高齢者が混乱を来さぬよう新型コロナワクチンの接種を優先しまして、個別通知を送る時期が重ならないよう状況を確認しながら慎重に取り組んでまいります。

○川又照雄議長 教育部長。

〔武藤範幸教育部長 登壇〕

○武藤範幸教育部長 小中学校の電子黒板設置についての2点のご質問にお答えいたします。

まず1点目、小中学校の電子黒板の整備率でございますが、まず、令和元年度末までに市内小中学校17校において各2台、合計34台を整備し、今年度におきまして、国のGIGAスクール構想の早期実現により、電子黒板124台を10月から順次、各小中学校に整備し、11月4日に設置が完了したところでございます。これで市内小中学校の普通教室110教室、並びに特別支援教室39教室、合わせまして158の全ての教室に電子黒板を設置したところで、整備率といたしましては100%となったところでございます。

次に、2点目の電子黒板のこれからの活用についてのご質問にお答えいたします。

活用の例で申し上げますと、電子黒板は文部科学省におきまして、今後導入を促進するデジタル教科書を使った授業において、画像や資料を瞬時に拡大表示したり、画面上での書き込みやその保存、再提示など、学習活動に応じた活用ができるものでございます。また、1人1台のタブレット端末を用いた授業の中では、児童生徒の考えを電子黒板上に映し出し、他の児童生徒との比較検討がスムーズにできるなど、対話的な学習をより効果的に行うことが可能となります。さらに、在宅でのオンライン学習の際には、学校での教師用の大画面モニターとして使用することで、児童生徒の個々の表情を見取りながら、個に応じた適切な指導、助言に生かすなど、学びの保障や質の向上に活用できるものでございます。

なお、今年2月にはICT機器を活用した教育活動の充実と教職員のICT活用能力の向上について検討、協議する組織といたしまして、市教育委員会を事務局とし各学校から選出されました9名の教員と、ICT活用の専門家であるアドバイザーで構成する市GIGAスクール構想推進委員会を設置するとともに、2月15日からは各小中学校に週1回のペースでICT活用スキルを持ったICT支援員の派遣を始めたところでございまして、電子黒板をはじめとしたICT機器をより効果的に活用した教育について引き続き調査研究を進め、実践を通した中で児童生徒にとってよりよい活用となるよう努めてまいります。

○川又照雄議長 諏訪議員。

〔4番 諏訪一則議員 質問者席へ〕

○4番（諏訪一則議員） ただいまご答弁、大変ありがとうございました。1回目の高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種について、2回目の質問をさせていただきます。

高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種の市の予防接種率は高いとはいえ、まだ多くの未接種者がおります。予防接種を受けてない方は、肺炎にかかりやすい状態が続くこととなります。

そこで、本市でも肺炎が原因で亡くなる方はいらっしゃると思いますので、昨年ので結構ですので、肺炎で亡くなられた方がどのぐらいいらっしゃるのか、また、亡くなられた方の死因のうち、肺炎は我が市においてどのぐらいの位置にあるのかお伺いいたします。

○川又照雄議長 保健福祉部長。

○柴田道彰保健福祉部長 ただいまのご質問にお答えいたします。

昨年度の肺炎による死亡者は120人でございます。これは悪性新生物、心疾患に続く3番目の死因となっております。令和元年度の当市の死亡者842人の14.3%を占めております。

○川又照雄議長 諏訪議員。

○4番（諏訪一則議員） ありがとうございます。2問目の電子黒板設置につきましては理解いたしました。

肺炎は全国だけでなく我が市においても3位と死因の上位に位置しており、また、死亡数は120名おられて、死亡者の全体の14.3%とのことです。高い割合を占めていると考えられます。一般に、肺炎のうち4分の1から3分の1は肺炎球菌によるものと考えられます。先ほども申しましたが、高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種は、今年も厚生省において65歳だけでなく、これまで。

○川又照雄議長 諏訪議員、質問するなら質問するというふうをお願いしたいと。

○4番（諏訪一則議員） いや、質問じゃありませんよ。よく聞いて言ってください。

○川又照雄議長 よく聞いた上で注意してるんですけど、よろしく。

○4番（諏訪一則議員） 65歳だけでなくこれまでの接種を受けてない節目の年齢の方に接種の機会を引き続き設けることとしております。我が市では任意接種でも実施していることですから、予防接種を受けてない方への接種勧奨をさらに進めていただき、高齢者肺炎球菌ワクチンの予防接種向上に努めていただきたいと思います。

以上をもちまして、私、諏訪一則の一般質問を終わらせていただきます。